

今の自分

子育てで悩んだことが、
誰かを支える力として
今、活きている。



Vol.01

弁護士

里内 友貴子さん

Satouchi Yukiko

京都市
上京区

1980年大阪府生まれ。四天王寺高等学校、大阪大学法学部、京都大学法科大学院を経て、2008年弁護士法人白浜法律事務所入所。京都弁護士会両性の平等に関する委員会委員。近畿弁護士会連合会男女共同参画推進連絡協議会委員。宇治市DV対策ネットワーク会議委員。株式会社ワーク・ライフバランス認定コンサルタント。プライベートでは、二児の母。趣味はピアノ。

弁護士の働く姿に魅せられて

「大学のオープンキャンパスで聞いた教授の話が印象に残って」と話すのは、白浜法律事務所での弁護士として活躍する里内友貴子さん。大学の法学部に進学した里内さんは、その教授が顧問を務める法律相談部で指導を受けたという。ボランティアで聞く無料法律相談には、地域の人が相談にやって来る。「自分が学んだことが、相談者の解決に役立つことが喜びでした」と里内さんはいう。「指導に来る〇日の現役弁護士と接するうちに弁護士になりたい思いが強くなりましたね」と里内さんは振り返る。里内さんの卒業年次は、翌年から法科大学院制度が創設される転換期だった。大学院進学のため、里内さんは1年間の勉強生活を過ごす。「その時期を乗り切れたのは、弁護士の方々にふれ、将来像を具体的に考えられたからです」と里内さんはいう。京都の法科大学院を経て、司法試験に合格した里内さんは、弁護士キャリアを開始する。

お勤め先の白浜法律事務所



事件の方針について
先輩弁護士と議論することも



「母親にその日食べさせた朝食のメニューを聞いてほしい」というんです。朝ごはんを食べたかとか、そういう話じゃないですよ。食物アレルギーが出たら食べたものを病院で報告しないといけない、知らないといけない、命に関わる、自分が子育てを始めて、ハッとしましたね。法律上の正論だけでなく、事件の渦中にある子どもの状況にも配慮しながら、依頼者に寄り添う。

子どもを産んで感じた 仕事の奥深さ

弁護士1年目は所長に付いて事件を担当。新人とはいえ依頼者には、1人の弁護士。「質問がどんどん飛んできましたが、曖昧に答えず、自分なりに調べて検討し、先輩弁護士と議論しながら回答してました」と里内さんは振り返る。人の人生に関わることだから、丁寧に向き合うことが大切なのだ。現在、離婚相続・後見等の家事事件を取り扱うことが多い里内さん。自分が結婚して子育てをする今、仕事にいつそうやりがいを感じるという。「以前は、依頼者さんのいうことに腹落ちまではしてなかったのですが、別居中の子どもに会うとき『母親にその日食べさせた朝食のメニューを聞いてほしい』というんです。朝ごはんを食べたかとか、そういう話じゃないですよ。食物アレルギーが出たら食べたものを病院で報告しないといけない、知らないといけない、命に関わる、自分が子育てを始めて、ハッとしましたね。法律上の正論だけでなく、事件の渦中にある子どもの状況にも配慮しながら、依頼者に寄り添う。



仕事と育児の両立に 悩んだから楽しい今がある

2人の子どものママでもある里内さん。「子どもが話せるようになって、寝るときに今日の出来事を聞く時間がとても幸せ」と話す。ご主人は司法修習時代の同期で、大阪で弁護士をしている。「家事と育児の7割を私がするからと、住む場所は京都に。その分、彼は通勤が遠い(笑)」。料理、洗濯、子どもの送り迎えは里内さん、「掃除は得意な彼の仕事」と家事を分担。今は家族の時間を楽しむ里内さんだが、現在に至るまでは悩んだ日々だったという。「子どもがいると17時半には退勤が必要。時間が足りない」と悩んでいましたね。しんどくて弁護士を辞めようと思ったことも何度も。「みんなどうしてるのかな?」と思い、ワークライフバランスについて学び始めた。第二子出産を機に約6割の女性が離職する現実を知る。「働きたいママが、当たり前働き続けられる社会になればいいな」と、里内さんは自分なりのアクションを起こし始める。



アクションを起こせば 変えていける

「お子さんがいる先輩弁護士何人かに『働きながらどう両立していますか?』と聞きに行きました。その輪が

悩んだら相談する
そのアクションを
大切に

広がり、今ではママ弁護士のランチ会を開催するほどに。自宅の仕事環境も工夫。書籍を揃え、自宅のパソコンを事務所のサーバーにつなぎ、業務用プリンターを導入する。週に一度は朝の時間を活用して勉強会に参加。さまざまな業界の話や聞き、異業種情報を収集する。ワークライフバランスについての講演も行う。「今まで成果を時間ではかっていたのは、受験勉強時代の悪いクセ。評価の基準を時間の長さから時間当たりの生産性へ変えていった」と里内さんは語る。「ライフプランを書いてみて、好き放題に働けた20代のほうが特殊だと気づいた。子育てが一段落すると親の介護に直面する時期。時間がないのを普通と考えないと」と意識を変えたと話す。これから社会に出る人たちにもアドバイスをする。「私もママになって悩んでいたとき、アクションを起こして解決できた。悩むよりもアクション。解決策を持っている人は、意外と身近にたくさんいるものです!」。



白浜法律事務所



里内さんの

LIFE HISTORY & ONE DAY

生き方ヒストリー アンド ある1日

- 17歳 オープンキャンパスに参加
- 18歳 法律相談部の活動開始
- 23歳 法科大学院進学
- 26歳 司法試験合格、司法修習開始
- 28歳 白浜法律事務所入所
- 29歳 結婚
- 31歳 第一子出産
- 34歳 第二子出産



あの頃の自分
大学、法科大学院時代は、弁護士を目指す学生や現役弁護士に囲まれて、刺激を受ける毎日でした。



これからの自分
弁護士活動に加え、ワーキングマザーの経験をもとに、男女両性に向けて、ワークライフバランスの考えを広め、その実践のサポートをしていきたいです。

4:30 起床
6:30 朝食
8:00 保育園へ送る
9:00 出勤
10:00 依頼者と電話
11:00 依頼者と打合せ
12:00 昼食

朝の時間を使って
仕事を
やりくりしています

12:30 裁判所で調停
依頼者と打合せ
16:00 判例・文献調べる
依頼者と電話
17:30 退勤
19:00 保育園のお迎え
家事
帰宅、夕食、入浴、
21:00 寝かしつけ、就寝

